

平成 26 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
1	製品由来の化学物質による吸入および経皮暴露に関する基礎的調査	<p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>検査対象となる製品及び検体について、保存方法に注意を払うこと。 関係機関と連携し着実に研究を進め、研究成果の活用を期待する。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 正確な調査を実施するために、検査対象物については製造から検査までの期間を可能な限り短時間とし、採取した検体は密閉状態で保存すること。 ② 経皮暴露の検査では、幼児用玩具については唾液による移行性検査も有益な手法である。 ③ 検査対象となる製品については、予試験で種類をしぼり、また、興味深い検査結果が出たものについては、次年度も研究を継続してはどうか。 ④ 製品製造について、基準・規格等を設定するなどの本研究成果を活用する場があれば、積極的に参加することを期待する。 ⑤ 蓄積された情報をもとに、関係機関と連携し着実に研究をすすめるよう努めること。

平成 26 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	評価 結果	コ メ ン ト
2	ムンプスワクチンの安全性に関する研究	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div data-bbox="584 331 2040 477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ムンプスワクチン接種後の副反応の出現率についての調査は、県民の安全・安心の確保につながる。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①副作用の出現率の調査は、県民のために実施する必要がある。 ②県小児科医会との共同研究であり、医会からのニーズもあることから、成果を十分に活用できる。 ③本研究には、検査手法や検査機器など、これまでの研究の蓄積・体制が生かせる。 ④ワクチン接種時に、医師から副反応の発生率について説明を受けることで、保護者の安心感につながる。 <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div data-bbox="584 796 2040 932" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>県小児科医会と連携を図り研究に取り組むこと。 研究成果について効果的な活用ができるよう期待する。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①有益な結果が得られた場合は、国に対して本調査研究に要した費用を要求するべき。 ②県下全ての小児科の病院から情報や検査検体を入手できるシステムを構築してはどうか。 ③ムンプスワクチンの定期接種の可否の決定に関与することを期待する。 ④県小児科医会と緊密な協力体制のもと研究に取り組むこと。 ⑤現在、ムンプスワクチンは任意接種となっているため、無菌性髄膜炎の発生率を統計的に分析するためにも、この研究により多くの小児科医会の医師の賛同が得られることを期待する。

平成 26 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
3	水道法規制・未規制金属類の多成分一斉分析法開発に関する研究	<p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>浄水前の原水で調査してはどうか。 研究成果を広く活用し、県民への情報提供に努めること。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICP-MSの分析法やイオンクロマトグラフ等の機器が備えられており、本研究を実施する基盤がある。 ②浄化後の水道水中の金属含有量は、極めて少ないことが予想される。浄水前の原水で調査してはどうか。 ③測定法の開発に留まらず、水道水質規制にも活用することに繋げることを期待する。 ④水道水の安全確保は県民生活にとって基本となる重要なことである。 ⑤研究成果については、県民への情報提供に努めること。

平成 26 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事後評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
4	飲料水に係る健康危機事例の解析と迅速検査法の確立及び除去対策に関する研究	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div data-bbox="584 400 2040 544" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>着実に成果をあげており、兵庫県における水道水の安全性確保に貢献した。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今回整備された毒劇物簡易検査マニュアルは、今後、問題が発生した時の有効な手引きになる。 ②飲料水の安全確保に資する研究は重要であり、実施する意義は大きい。 ③県の施策と合致しており、成果の活用は目標どおりできている。 ④水道水の健康危機管理において、早期発見、原因究明、除去対策等が確立されたことは、安全・安心な水道水の提供につながっており評価できる。 <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div data-bbox="584 1007 2040 1161" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>水道水中の放射性物質について調査してはどうか。 研究成果について、県民への周知に努めること。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①水道水については、放射能汚染への関心も高いと思われるため、水道水中の自然放射性物質と人工放射性物質等との存在比を調査してはどうか。 ②成果の公表と併せ一般県民への周知に努めてほしい。

平成 26 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事後評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
5	感染症発生動向調査における遺伝子解析手法によるウイルスを中心とした病原体検索の体系化に関する検討	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div data-bbox="584 363 2040 509" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>着実に成果をあげており、兵庫県における感染症拡大の予防等に役立てられた。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①短期間で多くの実績をあげている。 ②流行早期に病原体を検出し、対策を講じるために、マルチプレックスPCR法を開発したことは評価できる。 ③これまでの実績を活かした研究成果であり、関係機関へ還元することにより、今後の感染症拡大の予防や治療に役立った。 ④県の施策「感染症対策」に合致しており、成果の活用は概ね目標を達成している。 <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div data-bbox="584 971 2040 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さらに多くのウイルスについて、検体の同時検出が可能となるよう今後の研究に期待する。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①感染症の流行状況や予防対策等、県民に対して、分かりやすく簡潔に説明するよう工夫するべき。 ②研究成果について、医療機関や学会だけでなく一般への情報発信を積極的に行うべき。 ③流行の主流以外のウイルスについても、同時検査できるよう、今後の研究継続に期待する。